

まちづくりの資産を保存・活用した街路整備の取り組み

岐阜市 基盤整備部道路建設課
課長 石原 広幸

1. はじめに

岐阜市は、岐阜県の南西部に位置し、市域面積203.60km²、人口約41万人の中核市で、岐阜城を頂く「金華山」や、1300年の歴史を誇る鶺鴒で名高い清流「長良川」など、自然と歴史・文化が豊かな街である。中でも、織田信長公が楽市楽座をすすめた旧岐阜城下町の地域には、現在も数多くの寺社仏閣などの歴史文化資産が残っている。

「都市計画道路 岐阜駅高富線」は、岐阜市中心部と隣接都市との連携を強化するための主要な幹線街路で、今回整備を行った梶川工区はこれら歴史的地域を貫く計画である。

本道路整備に当たっては、幹線街路としての機能を確保しつつ、これらの歴史文化資産を保全するという課題を克服し、さらには、「歩き」を促す空間創出のための様々な施設整備や電線地中化などにより、地域に根付く歴史観光都市としての魅力向上に寄与した街路整備を実施したものである。



図1 事業位置図

2. 岐阜市の歴史的資産と「歩き」によるまちづくり

本市では、市街地にありながらも金華山一帯が「岐阜城跡」として、平成23年に国の史跡に指定され、山頂には、織田信長公が最も長く滞在した岐阜城がそびえている。その山麓には、1300年の伝統を誇る宮内庁式部職鶺鴒匠による鶺鴒で名高い清流長良川が流れており、緑豊かな自然や歴史、文化資産といっ

た多くの観光資産を有している。平成27年4月には、「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」として、日本遺産第1号に認定され、歴史文化資産を活用した地域活性化が進められている。

都市計画道路 岐阜駅高富線(梶川工区)が通過する金華地区は、戦国時代に城下町として栄え、発展してきた地区であり、基本的な骨格がほぼ当時のまま現存しているなど、歴史的なまちの面影を随所に残している。

そこで、本市では、金華地区において周辺の豊かな自然環境を活かしながら、歴史的な背景や文化を尊重したまちづくりを進めることとした。

具体的な施策として、歴史的資産等を戦略的に活用したまちづくりを進めるため、後世に伝えるまちづくり・ひろばづくり・かわづくりを基本理念とした「まちなか歩き構想」により、市民や観光客がゆったりと時間を過ごし、楽しめる空間を巡ることで物語を感じさせるようなまちづくりを推進することとした。

また、本市では、暮らすうちに誰もが幸せになれるまち「スマートウェルネスぎふ」を推進しており、「歩き」を中心とした取組みにより健康寿命を延ばす施策や、自動車優先の社会構造から脱却し、歩行者や自転車利用者に優しい道路整備が重要とするまちづくり施策を一体的に進め、健幸都市の実現に取り組んでいる。

そこで、本事業では、交通機能の強化、防災機能の向上に併せて、金華山周辺の緑豊かな自然環境や信長公ゆかりの歴史・文化資産との調和を図るとともに、歩行者が安全で快適に散歩することができる、“思わず歩きたくなる”空間の創出を目指し、事業を実施した。



図2 スマートウェルネスぎふの概要

3. まちづくりの動きについて

本市では、金華地区のまちづくりのあり方を探るため、平成15年度より、学識経験者や地元自治会等で構成される「都心北部地区まちづくり計画策定検討委員会」が組織され、地域の意見を聴きながら、まちづくりの基本計画が策定された。基本計画では、重層的な岐阜の歴史資産を受け継ぎ、次代へ繋ぐまとまりのあるまちづくりを基本テーマとし、歴史や文化を活かし、日常生活と調和したまちづくりを展開することとした。

平成18年度には、この基本計画を踏まえつつ、さらに市民の皆様の意見を聴きながら、「まちなか歩き構想」を策定した。これは金華地区の数多くの魅力ある拠点施設を結んだ周遊ルートを軸とし、歴史的・文化的資産を保全、活用しながら、多くの人に、自由に散歩を楽しんでいただく計画としている。

基本計画の中で、都市計画道路 岐阜駅高富線は、歴史的・文化的資産である妙照寺や萬松館を保存・活用できるよう、現状の国道256号を活用した道路整備を図ることとされた。

4. 歴史的まちなみの保全と幹線街路機能の両立について

当地区では、信長公が秩序ある城下町の形成を図るとともに、初めて楽市楽座制を設けるなど産業の育成をすすめた。尾張から商人、工匠等に移住させ、材木町、大工町、鍛冶屋町、魚屋町、米屋町など職業別に住まわせ、長良川の船運を利用し、川原町地区を物資交流の拠点とした。現在も地区の基本的な骨格がほぼ当時のまま残っており、景観に優れた、歴史的、文化的に貴重な建造物が多く現存している。

この地区において、本路線は、大正15年に岐阜都市計画街路27路線のうち、1等大路13路線の一つとして、幅員25m、4車線の計画であった。この計画通りに拡幅整備を行った場合、松尾芭蕉ゆかりの妙照寺や昭和天皇も御宿泊され、古典・近代の木造建築の伝統技術を駆使した萬松館といった歴史建造物が失われてしまうことや、広幅員道路による地域分断が生じ、岐阜公園（総合公園）周辺地区の歩行者ネットワークに影響を与えることが懸念された。このため、4車線道路の機能を確保しつつ、それらの歴史建造物を保全していくことが課題となった。

一方、地区内の道路は、一般国道256号（2車線）〔図3：緑色路線〕と市道本町1丁目大宮町2丁目線（2車線）〔図3：赤色路線〕でそれぞれ北進及び南進の自動車交通を担っており、計4車線相当の道路機能が確保されている状況であった。そこで、図3の様に、4車線機能を有する現況の車道の交通形態を維持し、市道を歩道の拡幅のみとする、一方通行2車線として、計画幅員25mから17mに縮小〔図3：青色部→赤色部〕するとともに、一般国道256号区間を追加〔図3：緑色部〕する都市計画変更を行った。

これにより、道路機能を確保するとともに、美しい歴史的なまち並みを保全するという課題を克服した。また、広幅員道路による地域分断も最小限にとどめることができ、地域コミュニティの保全や来訪者の回遊性の向上等、地域に根づく歴史観光都市としての魅力向上にも寄与することができた。

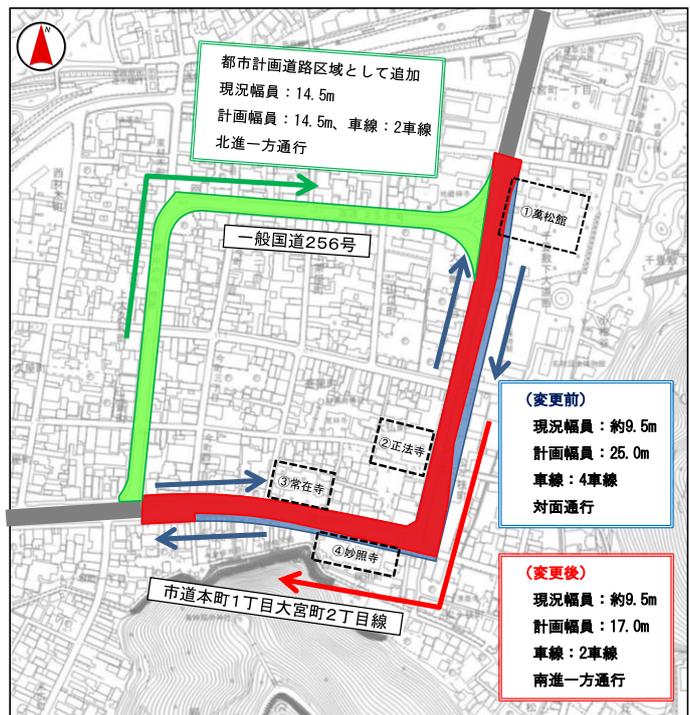


図3 都市計画変更の概要

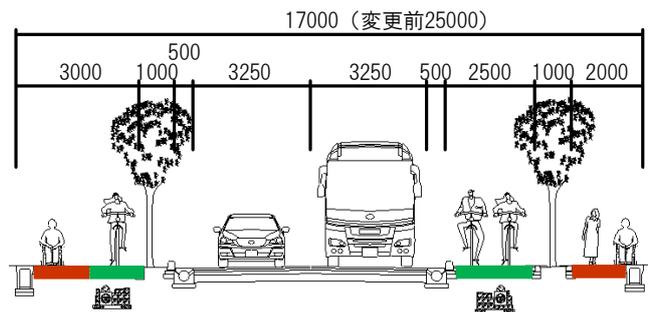


図4 標準横断面



昭和天皇が宿泊された旅館



日本三大仏の岐阜大仏



斎藤道三の国盗りの拠点



松尾芭蕉ゆかりの寺院

写真1 歴史建造物



写真2 整備前後の写真

5. 魅力ある道路づくりに向けて

本路線は、中心市街地や岐阜城下町などを通り、市内のバス幹線軸を構成する幹線街路であり、さらには、巨大地震等の発生時には、緊急輸送道路としての役割も担う重要な路線である。

本整備では、震災発生時のライフラインの確保に有効な無電柱化事業により、市街地における防災機能の向上を図った。

さらに、道路整備に併せて、近年多発している都市型水害や短期的・局所的な豪雨への対策として、既存の排水路の拡幅による対策が難しい市街地において、経済的で効果的な対策として、排水路の能力を補完するため、現況流下能力以上の雨水を一時的に貯める貯留槽（内径4.0m）を道路直下約7mに築造し、浸水被害の軽減、都市生活の安全確保を図った。

また、周辺の歴史・文化を感じながら散歩する「まちなか歩き」のコースとして、“思わず歩きたくなる”空間の創出を目指し、歩行者や自転車利用者にやさしい道路整備を進めた。具体的な整備内容として、電線の地中化により電柱の無いまちなみを形成し、都市景観の向上を図った上で、季節感のあるヤマボウシなどを植樹し、潤いと安らぎを与える並木道の整備や、昔は存在していた水路を再現したせせらぎ水路のほか、休憩スポットとしてベンチ、水飲み場を設け、史跡案内看板を随所に配置するなど、多くの市民や来訪者が散歩したくなる道路へと生まれ変わった。

そのほか、本路線は通勤通学の自転車交通が非常に多いことから、従前は、歩行者と自転車との交錯や、車道へ自転車が溢れるなど危険な状況が見られたが、歩行者と自転車の通行部分を植栽帯で分離し、異なる色によるカラー舗装を行うことで、歩行者及び自転車利用者の安全性・快適性を確保するとともに自動車の走行性も向上し、人も自転車も安全に通れる道路空間を創出した。

さらに、岐阜市では「誰もが自由に移動できる交通環境社会の実現」を基本理念とし、公共交通を軸としたまちづくりを推進するため、幹線バス路線を強化し利便性の高いものにするために岐阜市型BRTを進めている。本路線の整備により、連節バスの通行が可能となり運行が始まった。また、本事業と併せてバスレーンの導入やバス停上屋の整



▲休憩所スポット（水飲み場、ベンチ）



▲せせらぎ水路



▲電線共同溝と地下貯留槽の整備イメージ



▲史跡案内板（英語併記）

写真3 整備写真・イメージ

備も実施している。

6. 地域住民との協働

本事業の推進にあたっては、地元住民で組織されたまちづくり協議会と設計段階から協議を重ね、植栽の樹種や、自転車道や歩道の舗装色選定、せせらぎ水路の形状など地域住民と協働して進めてきた。また、本地区は「岐阜城下町遺跡」という埋蔵文化財包蔵地に指定されており、工事に先立って発掘調査を実施するとともに、現地見学会を開催し、多くの市民に訪れていただき、岐阜の歴史を学んでいただいた。

工事中においては、国内外からの観光客が多く訪れる地区での長期に亘る工事であったことから、大型の整備イメージ看板を工事区間の起点と終点に設置するとともに、歩道上に本地区の歴史的背景を紹介したパネルを展示し、道路整備のPRに努めながら、事業に対する住民の理解を求めた。なお、歴史文化資産に興味を持って来訪される外国人観光客に対して、情報発信ができるよう、案内板には英語併記も実施した。

また、本地区では、まちなみ保全の機運の高まりとともに、民間が町家等の歴史的建造物の維持・復元工事を行う際に助成を受けられる「ぎふ景観まちづくりファンド助成制度」の活用も進むなど、道路整備に併せた歴史的なまちなみの保全も進んでいる。

このように、ハード整備とソフト整備、行政と民間との一体的な取り組みにより、道路整備の効果が一層高まり、地域のまちづくりのみならず歴史的観光都市としての機能を十分に発揮できている。

7. おわりに

本事業の計画・設計・施工にあたっては、地元住民の皆様や道路管理者、交通管理者など、多くの皆様の努力と熱意により、まちづくりと一体となった道路整備が実現したものである。本事業が地域の賑わいや魅力を創出し、まちの活性化に繋がることを期待する。



写真 4 発掘調査の現地見学会の様子



写真 5 大型の整備イメージ看板設置の様子



写真 6 ぎふ景観まちづくりファンド助成制度の活用事例